

## 別紙

### 柿原工業株式会社 温室効果ガス削減計画

#### 1 事業の概要

##### (1) 事業所の名称

柿原工業株式会社 本社工場

##### (2) 事業所の所在地

広島県福山市箕沖町99-13

##### (3) 業種

自動車部分品附属品製造業

##### (4) 事業所位置図

別紙のとおり

#### 2 計画の期間

本計画の期間は、平成23(2011)年度を基準年度とし、平成24(2012)年度から平成28(2016)年度までの5年間とする。

#### 3 計画の基本的な方向

##### 1 基本的な考え方

当社は、環境の保全を経営の重要課題と位置付け、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。

特に、今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動のみならず、当社の製品を使用する消費者のことも考慮し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

##### 2 方針

- 省エネルギー、省資源の推進
- 新エネルギーの導入促進
- 環境にやさしい製品の提供
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- グリーン購入の推進
- 環境保全活動への積極的な参加
- 社員への環境教育の徹底

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
	平成2年度	基準年度 平成23年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素		4688	4688

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
	平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素			

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
	平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン			
一酸化二窒素			
HFC PFC SF <sub>6</sub>			

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：生産量 (千ハンガー)

単位：排出量(t-CO<sub>2</sub>)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 2 3 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 2 8 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4688	129.4	36.23	4.9	4458	129.4	34.45
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量	4688	129.4	36.23	4.9	4458	129.4	34.45
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)			12.83	4.9			12.20
目標設定の考え方	エネルギー起源CO <sub>2</sub> は原単位ベース年1%の削減率 補足) ハンガーとはメッキラインで素材を固定した治具を吊る機器の名称で、そのハンガーがラインを通る回数をハンガー数とすると、エネルギーの使用量と密接な関係がある為、原単位の分母に使用しています。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a)/(b) 原単位見込(g) = (e)/(f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気原単位の改善	電気原単位を前年度比1%改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率照明への更新</li> <li>・高効率誘導灯への更新</li> <li>・高効率整流器への更新</li> <li>・高効率冷凍機への更新</li> <li>・冷暖房温度の適正管理</li> <li>・休憩時間の消灯の徹底</li> <li>・省エネ型電動成形機への更新</li> </ul>
2	燃料原単位の改善	燃料原単位を前年度比1%改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸気配管保温の適正管理</li> <li>・ボイラー空気比の適正管理</li> <li>・低燃費フォークリフトへの更新</li> </ul>
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

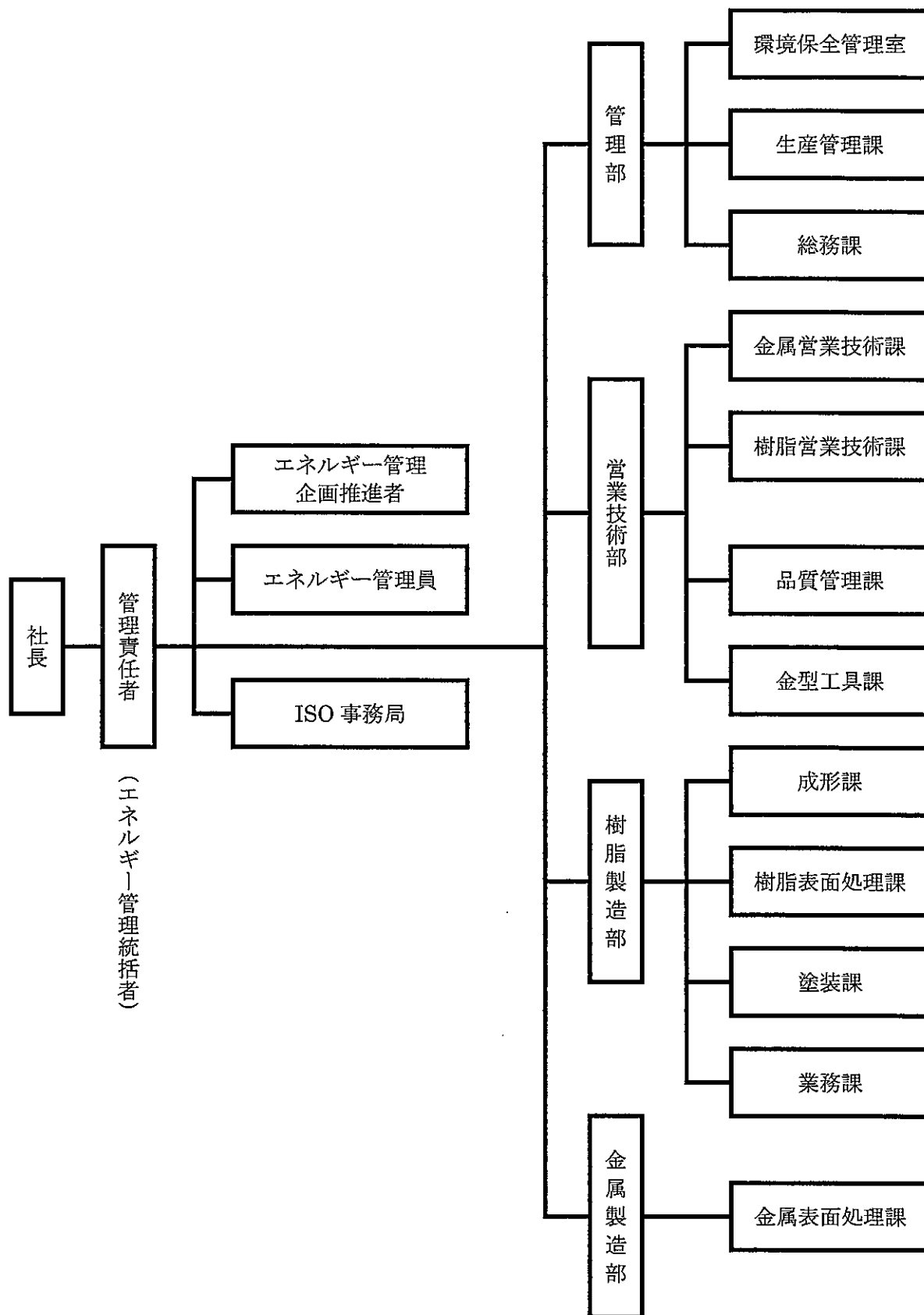
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	太陽光発電設備導入	年間100t程度のCO <sub>2</sub> 排出削減	第二工場の屋根上に太陽光発電設備を設置
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

ISO14001の推進体制及び省エネルギー推進委員会を中心として、毎年、温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。

また、毎年度の取組状況、点検・評価内容等については、計画書とともに公表する。

(3) 計画書等の公表

計画書等は事業所に備え付けて閲覧可能とする。